

2020. 2. 15

畑 啓之

日本に求めつづけられているイノベーション それを実現するのは人の知恵である

イノベーションとは何か？ 日本にオペレーションはあるがイノベーションはない？  
これが日本弱体化の原因だった。

日本経済に閉塞感が漂って30年近く、やっとわずかながら上り坂を登り始めた感はあるが、その上り坂はいつ下り坂になっても不思議ではない。国が糧を得る手段としての国債の発行も常態化した。いまでも日本の国もあと数年で破産という声があちこちから聞こえる。

国が富むためには、日本国民が売買できる、または物々交換可能な価値を創造し続けることが必要である。いわゆるイノベーションである。しかし、日本の国は「出る杭は打たれる」のことわざ通り、尖った才能ある人間は周囲の人間に叩かれ潰されていく。これが日本という国が世界で尖った（どこかに秀でた、いわゆるクール・ジャパン）存在になれない理由のひとつである。

2次元の世界からは3次元の世界が見えず、3次元の世界からは4次元の世界が見えない。戦後の日本は「オペレーション」がこなせれば、そして大きなミスさえしなければ出世の階段を登っていった。そして、出世者の価値観が会社の、そして日本の進路を決めてきた。この過程で、とがった人間、統計学でいえば正規分布の中心から大きく外れた位置にいる人間は排除される力が自然に働いた。この流れは多かれ少なかれ今の日本でも続いている。

今の日本に求められるのは「オペレーション」とは異質な「イノベーション」である。「オペレーション」の世界はAIに任せることができるが、「イノベーション」の世界は人間なしには前進して行くことはできない。

「オペレーション」の次元世界からは「イノベーション」の異次元世界が見えない。したがって、「イノベーション」の世界に生きる住民には、いまの「オペレーション」の世界には市民権がない。たとえあったとしても、日本でその影響力を顕著に表すことは難しい。「オペレーション」の世界の住民からすると「イノベーション」の世界の住民はお化けにしか過ぎない。だが、このお化けはやがて実態として「オペレーション」の世界に姿を現すことになる。そして、その定住先に選ばれるのは日本以外である場合が多い。「イノベーション」の住人にその住処を提供しないことが、日本の社会の抱えている、根治できない病根の根本原因である。

秀でた若者、尖った若者のすることを、理解しようとする努力が今の日本の私たちに求められている。日本の社会が「イノベーション」世界という高みに一步登っていくために。最近では国も「大学入試制度の改革」「大学卒業要件の見直し」に着手し始めた。尖った人材を発掘し、その才能を伸ばしていくことがその目的である。ただ、この思惑が形となって現れてくるには10年、20年と長い歳月を要する。

一番簡単な方法は、若者を海外の大学で学ばせ、その成果を日本のために発揮してもらうことであるが、こちらも日本の大学改革にからめて見直し・推進していく必要がある。明治維新、終戦直後につづいて日本の今は、伸るか反るかの重要な時期である。以前にもそうであったように、海外の力をうまく利用していく知恵も必要である。

なお、シュンペーター (Schumpeter, J.A.) によるイノベーションの定義は、

1. 新しい財貨の生産
2. 新しい生産方法
3. 新しい販路の開拓
4. 原料もしくは半製品の新しい供給源の開拓
5. 新しい組織の実現

であって、一般に受け止められるような大発明を求めているわけではない。ただし、この「新しい」という言葉には限りない広がりがあり、それをどう捉え、どう実行していくかが求められている。これには、知識ではなく知恵を必要とする。